

喘息による入院が激減、COVID-19 流行による「生活様式」の変化が影響か

東京大学大学院医学系研究科社会医学専攻公衆衛生学分野の阿部計大特任研究員、宮脇敦士助教、小林廉毅教授らのグループでは、株式会社メディカル・データ・ビジョンより提供された全国 272 の急性期病院における診断群分類包括評価レセプトデータを用いて、2020 年の COVID-19 流行後の喘息による入院数が、2017 年から 2019 年の同時期の入院数と比較してどのように推移しているのかについて検討しました。

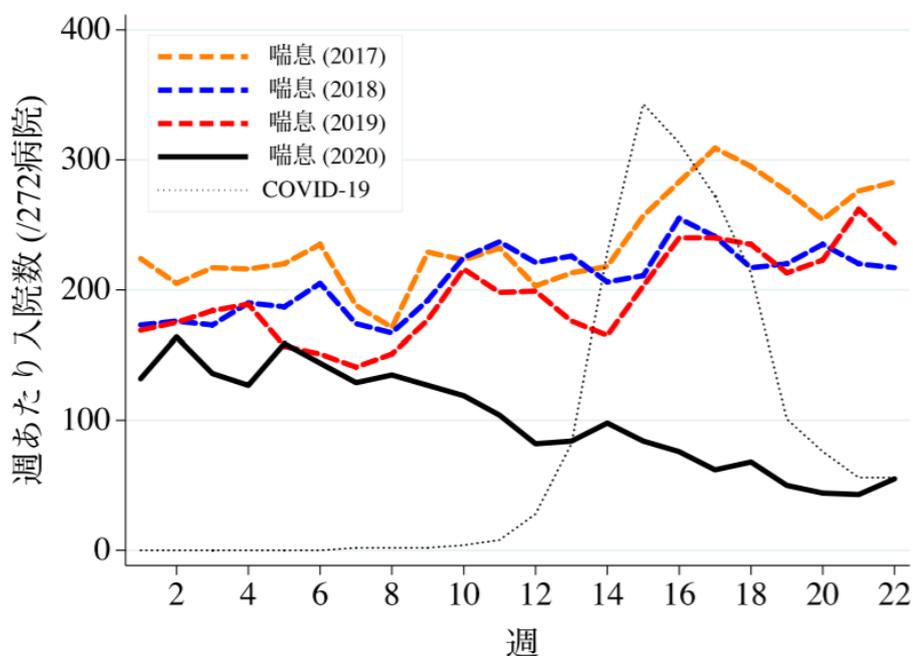


図 1. 2017 年から 2020 年(第 1 週～第 22 週)に観察された喘息と COVID-19 による入院数の推移

その結果、2020 年第 9 週以降(2/24-5/31)に喘息による入院数が、2017 年から 2019 年までの同時期と比較して、顕著に減少傾向にあったことがわかりました。統計学的に年・週によるトレンドを調整した後では、2017-2019 年と比較して、週あたり平均 55% (95%信頼区間 45%-63%; $p < 0.001$)の減少が認められました。

年齢別に観ると、18 歳未満の喘息患者入院数は 63%減少し、18 歳以上の喘息患者入院数も 44%減少していました。喘息による入院の減少傾向は、18 歳

未満と 18 歳以上の喘息患者の双方で認められました。

この喘息による入院の減少は、**COVID-19** 流行期間中に喘息のコントロールが良好であり、喘息発作が減少していたことを示唆しています。

本研究結果は、喘息患者が生活様式を変えることで、喘息による入院の多くを予防できる可能性があることを示唆しています。そして、喘息のケアに関わるすべての者が、薬剤による治療だけでなく、患者の予防行動や生活環境への配慮の重要性について再認識する必要があります。

論文情報

タイトル Trends in Hospitalizations for Asthma During the COVID-19
Outbreak in Japan

雑誌 Journal of Allergy and Clinical Immunology: In Practice (2020 年 10 月
14 日オンライン早期公開)

URL : <https://authors.elsevier.com/a/1b-WK7tEbbCn93>

日本語発表資料

<http://www.m.u-tokyo.ac.jp/news/press.html>

文 JST 客観日本編集部